

医療従事者の所定内給与額

—厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より—

本稿では、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より、一般労働者（民営＋公営の企業規模10人以上）と職種のうち「看護師」、「診療放射線技師」、「臨床検査技師」、「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士」の所定内給与額を取り上げ、医療従事者の賃金について確認したい¹。

1. 一般労働者の所定内給与額

一般労働者全体の平均年齢は44.1歳（2023年43.9歳）、所定内給与額は33.1万円（2023年31.9万円）である。2023年から平均年齢は大きく変わらないが、所定内給与額は1.2万円増加している（表1）。

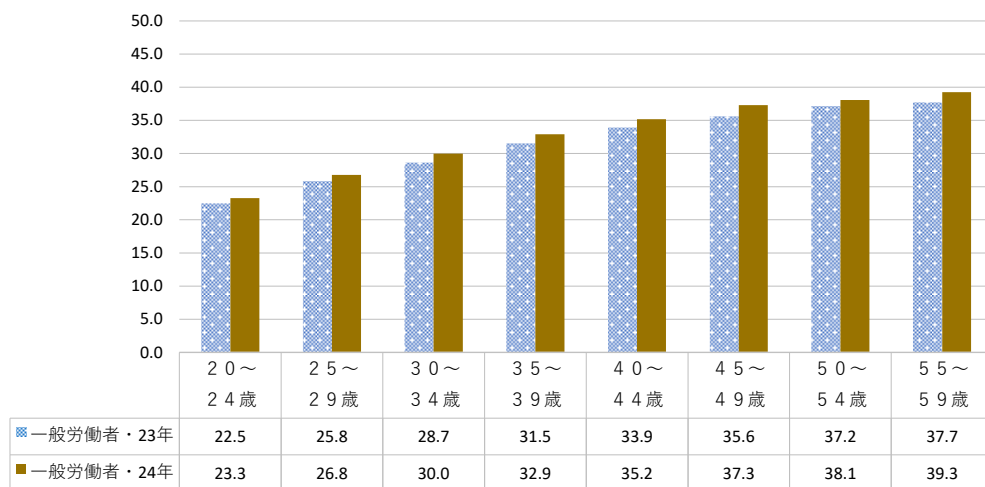
表1 一般労働者の平均年齢と所定内給与額
（民営＋公営の企業規模10人以上）

	平均年齢（歳）	所定内給与額 （万円）
2023年	43.9	31.9
2024年	44.1	33.1

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

図1から年齢別に所定内給与額をみると、20代前半（23.3万円）から、年齢の上昇とともに増加し、50代後半（39.3万円）で最も高くなる。年齢に伴う所定内給与額の上昇は40代前半までに大きく、40代後半以降は緩やかである。2023年と比較すると、すべての年齢層で所定内給与額は増加している。

図1 一般労働者の所定内給与額の比較（民営＋公営の企業規模10人以上、万円）



厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

1. 年齢別のデータをみる際には、職種を限定すると各年齢層のサンプル数も少なくなる点に留意する必要がある。

2. 医療従事者の所定内給与額

(1) 看護師の所定内給与額

看護師の平均年齢は41.2歳（2023年41.9歳）、所定内給与額は33.0万円（2023年31.9万円）である。2023年から平均年齢は0.7歳下がっているが、所定内給与額は1.2万円増加している（表2）。

表2 看護師の平均年齢と所定内給与額

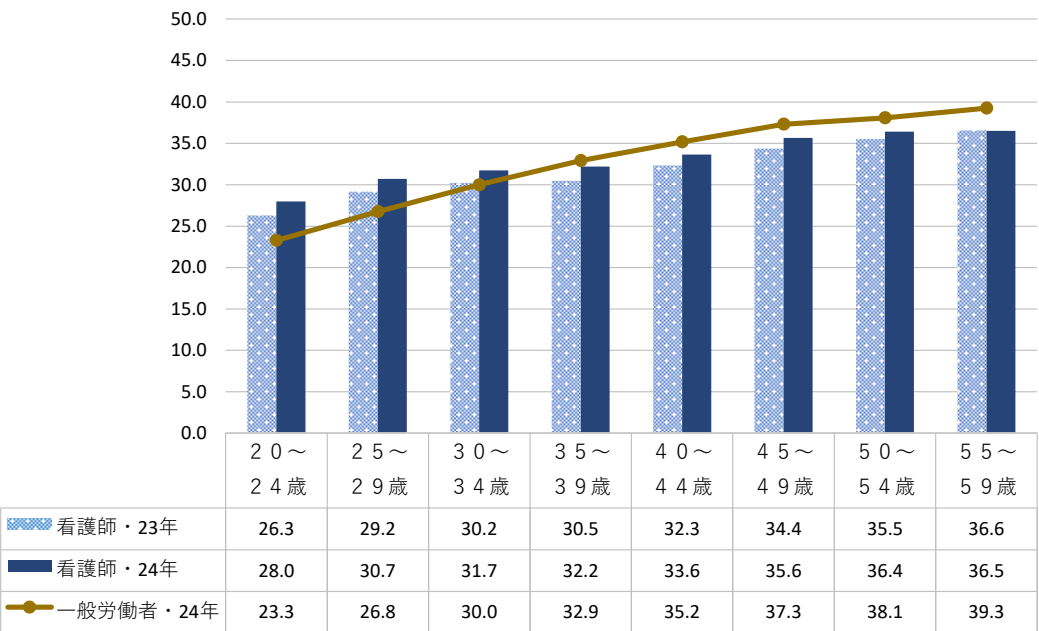
	平均年齢（歳）	所定内給与額 （万円）
2023年	41.9	31.9
2024年	41.2	33.0

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

図2から年齢別に所定内給与額をみると、20代前半の28.0万円が50代後半には36.5万円まで増加する。2023年との比較では、20代前半から40代にかけて1.3万円～1.7万円の増加となっているが、50代後半はほとんど変わらない。

一般労働者と比べると、看護師は20代前半（28.0万円）や20代後半（30.7万円）の所定内給与額が高く、一般労働者の同一年齢層をそれぞれ4.7万、3.9万円上回る。しかし看護師は30代以降の所定内給与額の上昇が一般労働者に比べて緩やかなため、30代後半を境に所定内給与額は一般労働者を下回るようになる。

図2 看護師の所定内給与額の比較（一般労働者は民営＋公営の企業規模10人以上、万円）



厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

（２）診療放射線技師の所定内給与額

診療放射線技師の平均年齢は40.0歳（2023年41.1歳）、所定内給与額は34.3万円（2023年33.6万円）である。2023年から平均年齢は1.1歳下がっているが、所定内給与額は0.7万円増加している（表3）。

表3 診療放射線技師の平均年齢と所定内給与額

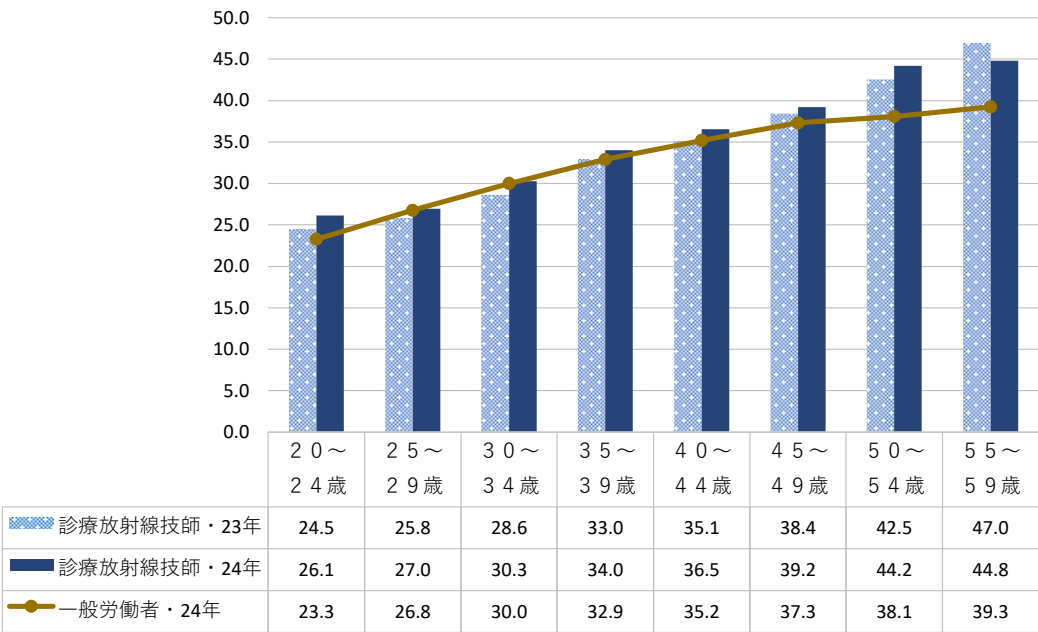
	平均年齢（歳）	所定内給与額 （万円）
2023年	41.1	33.6
2024年	40.0	34.3

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

図3から年齢別に所定内給与額をみると、20代前半(26.1万円)から年齢の上昇とともに増加し、50代後半(44.8万円)に最も高くなる。2023年との比較では、20代前半から50代前半にかけて増加しているが、50代後半は減少している。

一般労働者と比べると、20代後半（27.0万円）や30代前半（30.3万円）に大きな差はないが、それ以外の年齢層では診療放射線技師が一般労働者を上回る。

図3 診療放射線技師の所定内給与額の比較（一般労働者は民営＋公営の企業規模10人以上、万円）



厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

（３）臨床検査技師の所定内給与額

臨床検査技師の平均年齢は40.4歳（2023年41.3歳）、所定内給与額は31.5万円（2023年31.8万円）である。2023年から平均年齢は0.9歳下がり、所定内給与額は0.3万円減少している（表４）。

表４ 臨床検査技師の平均年齢と所定内給与額

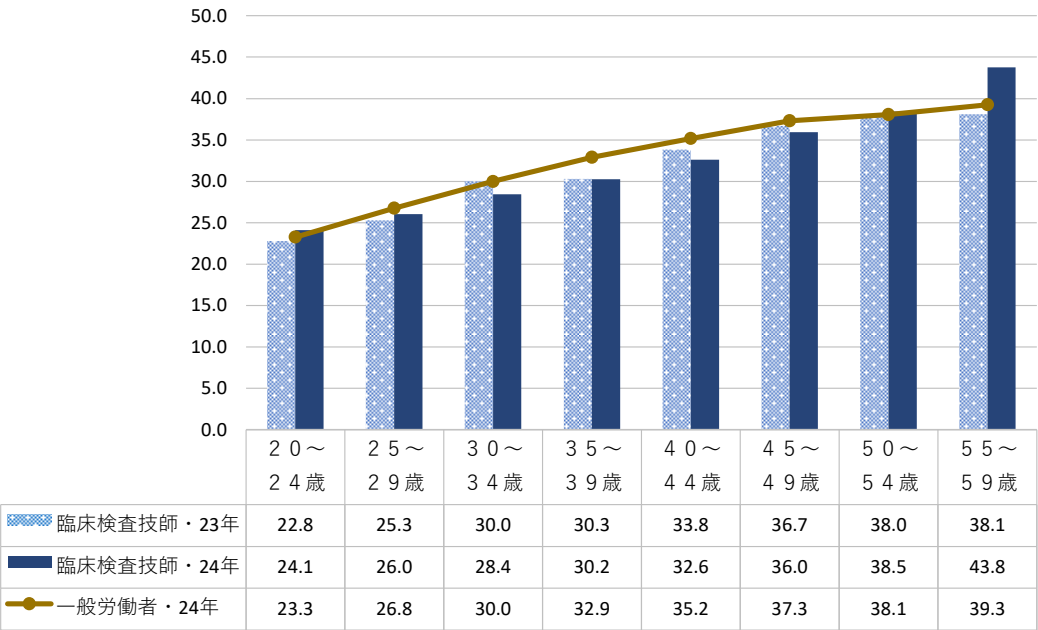
	平均年齢（歳）	所定内給与額 （万円）
2023年	41.3	31.8
2024年	40.4	31.5

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

図４から年齢別に所定内給与額をみると、20代前半（24.1万円）から年齢の上昇とともに増加し、50代後半（43.8万円）に最も高くなる。2023年との比較では、20代は増加しているが、30代や40代では減少している層もみられる。

一般労働者と比べると、20代前半や50代は臨床検査技師が上回るが、それ以外の年齢層では臨床検査技師が一般労働者を下回る。

図４ 臨床検査技師の所定内給与額の比較（一般労働者は民営＋公営の企業規模10人以上、万円）



厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

（４）理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，視能訓練士の所定内給与額

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士の平均年齢は35.5歳（2023年35.6歳）、所定内給与額は29.9万円（2023年29.0万円）である。2023年から平均年齢は変わらないが、所定内給与額は0.9万円増加している（表５）。

表５ 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，
視能訓練士の所定内給与額

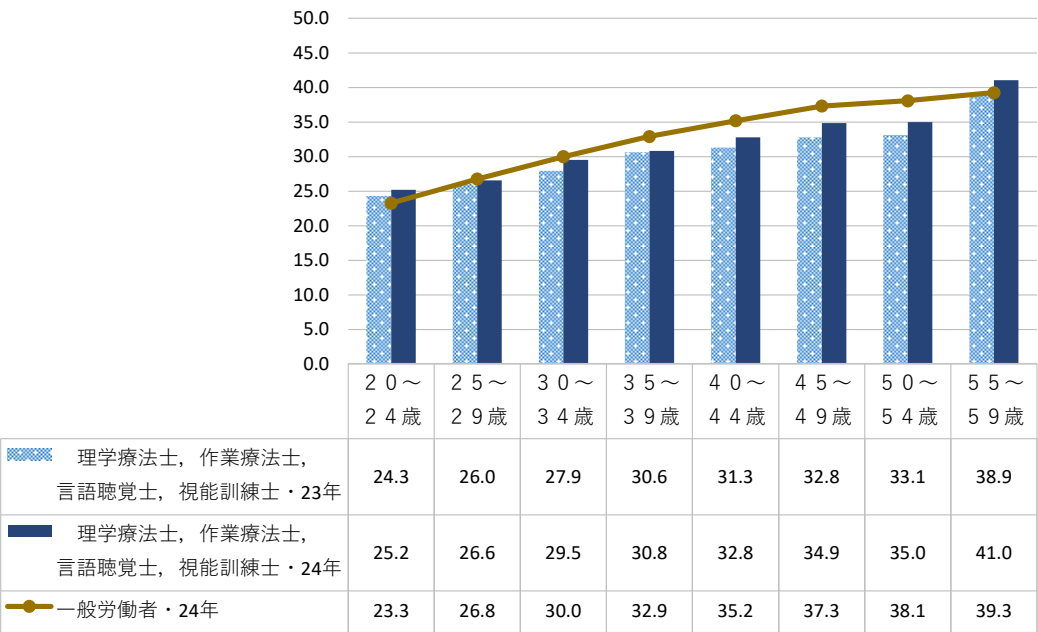
	平均年齢（歳）	所定内給与額 （万円）
2023年	35.6	29.0
2024年	35.5	29.9

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成

図５から年齢別に所定内給与額をみると、20代前半(25.2万円)から年齢の上昇とともに増加し、50代後半（41.0万円）で最も高くなる。2023年との比較では、いずれの年齢層でも増加している。

年齢別の所定内給与額を一般労働者と比較すると、20代前半や50代後半は一般労働者を上回るが、それ以外の年齢層では一般労働者を下回る。

図５ 理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，視能訓練士の所定内給与額の比較
（一般労働者は民営＋公営の企業規模10人以上、万円）



厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成